

第1学年1組 生活科学習指導案

指導者 藤川 悦子

1 単元名 いきものとなかよし

2 指導観

- 本学級（男子18名，女子15名）の児童は，素直で何事に対してもまじめに取り組むことができる。しかし，学習中の発言を見ると積極的な数名の児童が中心となって学習をリードしているだけで，わかっているも進んで発言しない児童や，理解することができずに黙っている児童も多く見られる。また，何にでも興味を示し，積極的に調べ学習を行ったり，創作活動をしたりする児童がいる反面，友達の行動を見てまねをする児童や後ろから見ているだけの児童も見られる。

これまでの生活科学習では，アサガオを育てる活動を通して，植物に親しみ，継続して世話をする楽しさを味わったり，成長を楽しみに待ったりする学習を行ってきた。また，登下校中に見付けた花を持ってきたり，バッタやカマキリなどの生き物を捕まえて育てたりする等，生き物に興味を示す児童がいる。しかし，新型コロナウイルス感染症の流行や熱中症指数の厳重警戒等が続くことで，休み時間を外で自由に過ごすことができない状況があり，生き物にかかわりにくい状況である。また，生き物が嫌いな児童，生き物を触りたいと思っているが触ることができない児童，生き物を触りたがらない児童，触りすぎて生き物を死なせてしまった児童，世話をせず生き物が死んでもあまり気にも留めない児童といった状態である。これらの児童の実態より，本学級の児童には，まず，校地内にいる身近な生き物たちに気付かせることで，触れ合わせることが必要であると考え。また，自分が世話をする中でいろいろな失敗の経験について，自分たちで話し合ったり，周りの人と関わりながら解決したりすることで，生き物に親しみをもたせるとともに飼いつけることができたことに自信をもたせたい。

- 本単元は，学習指導要領の生活科の内容（7）「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ，それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに，生き物への親しみをもち，大切にしようとする。」を受けて設定した。

低学年児童の発達段階として具体的な活動や体験を通して思考する特徴があるので，直接体験を重視した学習活動を行う。この活動を通して，身の回りの生き物への興味・関心を深め，いろいろな生き物の体の特徴や，それらが生命をもっていることに気付き，進んで関わったり大切にしたりすることができるようにすることをねらいとしている。本単元は，一年生で行う最初の飼育活動であるので，生き物の変化や毎日の様子に関心をもつことをめあてに，生き物に触れて楽しみ，大切に育てることに重点をおきたい。

- 指導にあたっては，以下のような手だてをとってテーマにせまるものとする。

(1) 思いや願いが連続し，実現していくための繰り返し活動の設定

本単元では，児童一人一人が生き物探しを行って生き物を捕まえ，各自で生き物を育てていく。ここでは児童一人一人の思いや願いが連続していくために，生き物の住みか作りの活動を繰り返し行う。

まずは，見つけた生きものについて友達と見合う。そして，「見つけた生きもの，捕まえた生きものを育てたいですか。」という教師の声掛けから，児童一人一人が住みかを作ってより生き物と接したいという思いをもてるようにする。その上で，自分なりに生きものの住みかを作る活動を設

定する。その後の活動として、生き物が喜ぶためにはどのような住みかにすればよいかという教師の声掛けから、児童一人一人が住みかをもっとよくしたいという思いをもち、自分なりの工夫で住みかを改良する活動を設定する。生き物が喜ぶための住みか作りを繰り返していくことで、それぞれの児童に成功体験や失敗体験など様々出てくると思われる。それらの体験を通して生き物の住みかに必要なものとそうでないものに気付き、生き物が喜ぶための住みかにしたいという願いをもち続けながら生き物が元いた場所に近付けるような住みか作りの活動を繰り返し行い、気付きの質を高めていくようにする。

(2) 子どもの思いや願いを引き出すための魅力ある題材の工夫

校地内には、バッタやカマキリ、コオロギ、キリギリス、ダンゴムシなどが主に生息している。これらの生き物は、目や口の位置、触角や足の長さ、えさの食べ方などそれぞれ異なる。また、人が触れたことで生じる生き物の反応の違い（跳ぶ、丸まるなど）、すみかやえさの違い、鳴き方の違いなど、たくさんの魅力がある。教師も生き物を飼う際に『むしノート』を活用し、児童と同じように日々の飼育で気付いたことや思ったことを自由に書く。書いたことの中で、伝えたい生き物の魅力を児童に広げ、それぞれが飼っている生き物との違いに目を向けるようにすることで、魅力を発見できるように工夫する。魅力が発見できると、「えさを食べている口の動きがかわいい。」「虫かごにもっと枝を増やして楽しんでもらいたい。」など、生き物に対する思いや願いが湧いてきて、日々の飼育を楽しむことができるようになると思う。

(3) 伝え合い活動の工夫

「生き物の変化や毎日の様子に関心をもとう」という気持ちをもって、飼育していく中で、様々な問題に出会わせる。生き物に正面から向き合い、生き物を飼育する達成感が次の意欲を生み、この繰り返しが態度化につながると考える。その際、生き物の動きを比べたり、学級文庫や図書室の本ですみかを調べたり、すみかを作ったりして思いや願いを伝え合う時間を朝の会や生活科の学習の振り返りの時間に十分取れるよう工夫をする。伝え合う際は、内容を付箋などの用紙に書いて同じ内容ごとに模造紙や黒板でまとめるなどして、思いを全体で共有できるように工夫する。学習の始めや振り返りの活動のときは、個々の目標や活動の振り返りを伝え合うことで、同じ思いをもつ児童や、違う思いをもつ児童の意見などを取り上げて、生き物に対する思いや願い、気付きを高めていく。

(4) 教師の見取り・支援の工夫

お世話している生き物と触れ合ったり、えさを食べる様子を観察したり、よりよいすみかに変えたりするなどして児童が生き物を飼育する様子を見ることで、生き物を大切に育てたいと思う態度を見取る。また、友達同士で聞き合ったり教えあったりする様子を見たり、『むしノート』に書いている内容を読んだりすることで、生き物への思いや願いをもち、気付きの質が高められているかを見取る。気付きの質の高まりが見られない児童には、個別に声をかけて、友達との違いを一緒に比べるなどの支援を行い、時間とともに変化する生き物の違いを発見させていきたい。

また、学級通信などで保護者への協力を呼びかけ、家庭での飼育活動や励ましの言葉をお願いすることにより、休み中の飼育活動がスムーズに続けられるように支援をしていく。

3 単元の目標

知識・技能	○ 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。
思考・判断・表現	○ 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

4 本研究における具体的な手だておよび学習評価

○ 思いや願いをもち、それらを主体的に実現し、気付きの質を高める

常時活動の中で、「生き物たちが元気で過ごせるように」と思いや願いをもち、飼育している生き物に対してやってあげたいことや、気が付いたこと、毎日の健康観察、学習の振り返りなどを『むしノート』に書かせることで、どんなえさを食べたか、どんなすみかだと喜ぶのかについて振り返られるようにする。そのことで、生き物にとってのよりよいすみかについての気付きの質を高められる。本時でも、前時までに考えていたすみか作りを参考にできるようにすることや、気が付いたことと学習の振り返りを書き込むことができるようにすることから『むしノート』を配布しておく。

活動時、参考にしてほしいアイデアがあるのに気付かない児童には、そのアイデアを出した児童の『むしノート』や、虫かごを見せて違いに気付かせるようにし、活動を見直すことが出来るようにする。また、アイデアを取り入れようとしているが、うまくいかない児童には、友達に聞いたり、『むしノート』を見せてもらったりするように促すことで、アイデアを取り入れられるようにする。

生き物に親しみをもち、今までの自分の活動を記録した『むしノート』を見て振り返りながら、キッチンペーパーとサランラップで作っていた寝床を自然にある葉っぱに替えるなど、自分本位から生き物に合わせた飼育の仕方を考えて、よりよいすみか作りをしている気付きの質が高まっている児童を評価していく。また、自分の経験を活かして、「ストローを枝に替えるといいよ。」など、友達に教えることができる児童についても評価する。

5 学習指導計画(総時間数 8 時間)

	主な学習活動	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
第一 次	1 むしをさがそう (3時間) (1)生き物を探そう。 (2)探した生き物を伝え合おう。 (3)生き物を飼おう。	(1)校内を自由に散策させる中で、生き物がいそうな場所に気付かせるようにする。 うまく見付けられない児童には、友達の話を聞くことで見付けることができるようにする。 (2)生き物の居場所や特徴などを児童に尋ねることで生き物に関心をもたせ、生き物を捕まえる計画を立てるようにする。 (3)捕まえた生き物を虫かごに入れる際に、一緒に土や草を入れている児童がいれば、その理由を尋ね、そうでない児童に疑問をもつことができるようにする。	【知】校庭の生き物の生息している場所に気付いている。(行動観察, 発言) 【思】これまでの経験から世話の仕方を想像し、世話の仕方を決めている。 (行動観察, 発言, ノート分析)

<p>第 二 次</p>	<p>2 むしとなかよくな ろう (5時間) (1)すみかをつくろう。 (2)気付いたことを伝えよう。 (3)すみかをよりよくしよう。 <本時> (4)成長や気付いたことを書こう。 (5)伝え合おう。</p>	<p>(1)常時活動で「生き物たちが元気で過ごせるように」と注意喚起を行う。友達と自分の虫かごを比べ、中に入れている土や草の理由を聞き合ったり、本で調べたりして、生き物にとって住みやすい環境は何かを知り、虫かごの中の環境を整えられるようにする。お世話をする際、気が付いたことを『むしノート』に書く活動が主体的に進められるよう、様子を見取り、児童に応じて声をかける。 (2)(1)で虫かごの環境を整えたことにより、生き物の過ごし方がどのように変化したかについて伝え合う活動を取り入れる。そのことにより、生き物に対して、自分本位の関わりから相手に合わせた関わりへと視点を変えて虫かごの中の環境を整えることに気が付けるようにする。 (3)『むしノート』を見て、(2)で気が付いたことをもとに、相手に合わせた虫かごの環境にすみかを作りかえることができるようにする。→本時 (4)『むしノート』に書いているものを新聞にまとめる。その時に、「私の生き物」にしかない特徴を書くように視点を与える。 (5)新聞の内容を伝え合うときに、生き物の成長を感じ、大切に飼育したことに気付くことができるように質問したり、感想を伝えたりする場面を設定する。</p>	<p>【知】生き物に変化していることや、生命をもっていることに気付いている。 (発言・行動観察、ノート分析) 【思】えさやりや掃除などをしながら生き物の様子を観察し、生き物に合わせた世話をしている。 (発言・行動観察) 【態】生き物の様子に応じて世話の仕方を変えることの大切さを実感し、これからも生き物を大切にしようとしている。 (発言・行動観察)</p>
----------------------	--	--	--

6 本時の学習 令和2年9月18日(金)5校時 於 運動場

(1) 主眼 生き物のすみか作りをする活動を通して、生き物が元いた場所に近付けるようにすることで、飼育している生き物に親しみを持ち、大切にしようとしている。

(2) 準備

教師：飼育箱、スコップ、虫とり網、霧吹き、探検バック、サランラップ

児童：自作の虫かご、生き物、むしノート

(3) 展開

<p>児童の活動</p>	<p>○ 指導上の留意点 【観点】評価規準(評価方法) ★本研究における具体的な手立ておよび学習評価</p>
<p>1 前時の学習を想起し、本時のめあてを話</p>	<p>○ 前時まで考えていたすみか作りができるよう</p>

<p>し合う。</p>	<p>にすることと、本時の学習で気が付いたことを書き込むことができるように、『むしノート』を配布しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時まで各児童が飼育の仕方を調べたことや話し合ったことを想起させることで、自分がしたいことを明確にして活動意欲を高めるようにする。
<p>「めあて」むしさんのおうち かいぞう大きくせんをしよう</p>	
<p>2 自分のめあてに向かって、すみかを作りかえたり、えさを取ったりしながら活動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動に行き詰った児童には、個別に声かけをし、児童の思いを引き出せるようにする。 ○ 同じ生き物を飼育している友達と虫かごの中を比べることにより、友達のアイデアを取り入れてすみか作りができるようにする。 ○ 生き物が住んでいた場所に立ち返って考えたアイデアや、身近な自然を利用したアイデアをとりあげている児童の活動を広めることにより、育てている生き物のえさや住みやすいすみかに気付くことができるようにする。 <p>★手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 参考にしてほしいアイデアがあるのに気付かない児童には、むしノートに書いている児童の虫かごや、そのアイデアを表現できている児童の虫かごを見せて違いに気付かせるようにし、活動を見直すことができるようにする。 <p>【態】えさやりや掃除など、生き物に合わせたすみかづくりを通して、生き物を大切にしようとしている。 (発言・行動観察)</p>
<p>3 本時をふり返り、今後の見通しをもつためにカードを書き、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取り入れたいアイデアがなかった児童には、すみかやえさの量など、これまでの飼い方がよかったのかについて振り返ることで、よりよい飼い方について考えることができるようにする。 ○ カードに記入できない児童は、思いを聞き取ることで、どのように書けばよいのか助言する。 ○ 児童の頑張りやよさをほめて認めることで、生き物に愛着をもって飼育する自分や友達のよさに気付くことができるようにする。